



通巻 122 号豊科郷土博物館友の会報

令和3年 7月 11日発行



活動への期待を高める友の会

友の会会長 百瀬 新治

昨年来のコロナ禍により、博物館の友の会活動もいろいろな場面で打撃を受けてきています。その中で、ほっと一安心する出来事がありましたので紹介します。

友の会の各部会で一番影響を受けたのは、小学生など子どもが参加する『タカラさがし部』でした。1年間の活動休止を経て、今年はどうするかを検討した結果、活動を再開しようということになりました。しかし、まだまだ新型コロナウイルスが終息を見ない現実を前に、参加する子どもの会員があるかどうか見通しが持てないままの出発となりました。

各小学校を通じて活動再開をお知らせし参加者募集を呼びかけました。募集期間初日の博物館には、参加希望の電話が数多くかかり、あっという間に定員に達してしまっただけです。その後はお断りの返事をするのに窓口の職員が苦勞したとのこと。友の会活動に参加を希望する小学生と保護者の方々がいかに多いかを改めて思い知らされました。

5月22日の発足式と第1回活動には、60名近い会員が集まり、さっそく博物館の展示見学や生



き物切り絵の体験に生き生きと取り組んでいました。安曇野の事を知りたい、この地での活動



に参加したいという願いや期待が私たちの方に伝わってきました。次の天蚕に直

接触れる計画を聞いて笑顔でうなずく様子が印象的でした。

集うことの難しさが言われる現状で、命を守るため集団で活動するには戸惑いもあります。

ただし、みんなで学び合い、楽しむことは、私たちが生活するうえで欠くこと



できない要件であります。

ワクチン接種が進んでいることも考え合わせ、



もちろん感染防止に十分留意しながら、自分たちの活動を充実させ楽しんでいく時期になりつつあると思います。

活発な博物館友の会活動に向け、本格的に歩む心構えと準備をしていきませんか。



第1回役員会・総会

4月15日（木）、第1回役員会・総会が無事に開催できたことに感謝いたします。感染症対策をとりながら開催し、令和2年度事業報告・会計報告がなされました。その後、2年度会計決算及び令和3年度会計予算が議決されました。



役員紹介

今年度の役員の皆様です。お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

会長	百瀬 新治	会計監査	隼田 和子
副会長	澤柳 まき子	会計監査	岡村 佳代子
副会長	二村 世貴子	顧問	片桐 宣利
会計	古川 幸男	会計	窪田 尚幸

各部正副部長

部名	部長	副部長	副部長
書道部	千野 秀濤	隼田 和子	
写真部	藤松 義躬	矢口 高志	
絵手紙部	高橋 久子	八木 とみ	
山草部	古幡 正夫	村田 資子	澤柳 まき子
植物画部	佐々木 泉	上条 雅代	
郷土史部	古川 幸男	—	
戦時生活部	臼井 泰彦	藤原 恵正	
自然と暮らしの文化部	宮澤 紀美子	—	
植物調査部	新倉 美智子	—	
タカラさがし部	千村 裕一	藤松 慎一郎	北原 勉
着物リメイク部	西澤 政子	小山内 朋子	



友の会活動

◆「第37回 山草・サクラソウ展」令和3年5月3日（月）～5月5日（水）

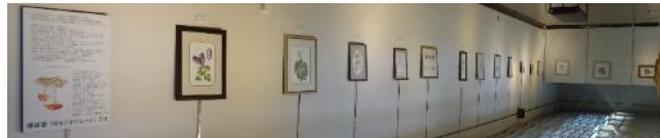
昨年度、感染症の影響で開催できなかった「山野草・サクラソウ展」を今年度は無事に開催することができました。今年は暖かかったので、例年よりも開花が早く、開花時期の調整が大変だったということです。会員の皆様が丹精込めて育てた山草・サクラソウ120点以上が見事に可憐な花々を咲かせており、多くの来館者の目を楽しませていただきました。



◆「第16回ボタニカルアート展・第35回写真展」令和3年6月5日（土）～6月20日（日）

安曇野や周辺地域の風景や季節を捉えた写真、貴重な記録となりそうな作品など21点が出品され、地域の美しさを再認識できました。

ボタニカルアート（植物学的でしかも芸術性も合わせ持つ画）38点が展示され、その鮮やかで繊細な表現に感動しました。



◆自然と暮らしの文化部の皆さんによる
学校ボランティア
～穂高西小学校5年生「クララ染」への協力～
令和3年6月2日（水）～4日（金）

穂高西小学校5学年からの要請を受けて、貴重な絶滅危惧種の蝶、オオルリシジミの食草でもあるクララを使った草木染めを実施しました。自然と暮らしの文化部の皆さんのご協力のおかげで、安全で有意義な学習体験ができました。大変きれいな黄色のランチョンマットの絞り染めに子どもたちも大喜びでした。



◆友の会 美化活動のお知らせ

7月29日（木）8:00～9:00 <少雨決行> **持ち物：飲み物等暑さ対策、草取り・剪定用具**

*館外の草取りや垣根の剪定を予定しています。友の会の大切な博物館のサポーター活動として実施します。

ご都合のつく方は、是非ご参加ください。中止の場合は各部長に連絡します。

◆今後の友の会展覧会予定

展覧会名	会期
第18回友の会絵手紙展	11月13日（土）～11月28日（日）
第5回戦時生活展	11月13日（土）～11月28日（日）
第67回友の会新春書芸展	令和4年1月15日（土）～1月30日（日）
第3回着物リメイク展	令和4年1月15日（土）～1月30日（日）

看板建築

博物館長 原 明芳

「あ！、なくなってしまった」、せっかく遠回りして見に来た看板建築が、跡形もない。こんな思いをすることが多い。

20年ほど前、じっくり時間を作って松本市内を観察して歩いた。開智学校、司祭館、宮島医院などの本格的な洋風建物のほかに、土蔵造りの町並みの中に看板建築をみつけることができた。通りに面した部分はモルタルなどで西洋風に飾られるが、裏へ回れば従来の木造建築、土蔵造りなのである。造られた時期は、昭和一桁から戦後にかけて。建築家 藤森照信が面白がって看板建築と名付けたが、看板建築ファンは多い。その後も、松本市内を中心に早朝に自転車で、通りという通りを走りまわって看板建築の写真を撮りまくった。画像資料はかなり蓄積されたが、たまに冒頭のようなことに出くわすこともある。安曇野を歩き回ると、穂高や豊科、有明などの旧道に沿った場所で、看板建築をいくつかみつけることができた。特徴は、意外とシンプル、さらに正面全体を洋風に飾るのではなく一部をモルタルで飾る奥ゆかしいものもあった。



【松本市内の看板建築】

建築の専門の方に看板建築の話題を持ちかけたことがあった。「それは建築ではない」と相手にされなかった。確かに、建物の表面だけで、構造等はほとんど従来と変わっていない。建築としてはたいしたものではないのかもしれない。看板建築を建てたのは有名建築家ではなく地方の大工、正面をはやりの洋風にしてほしいと施主に頼まれ、左官屋が腕を振るったと思われる。せめて正面だけでも洋風にといい願ひ、それを実現した大工の心意気が伝わってくる建物である。

令和3年度 博物館展覧会スケジュール (予定)

令和3年度 夏季企画展

満願寺展Ⅱ 殿様と庶民の満願寺

令和3年7月22日(木)～10月10日(日)

江戸時代、殿様の崇敬が厚く、多くの人々が参詣した、安曇野随一の観音寺、満願寺に迫る！

★講座 会場：2階学習室 【要申込】

- ① 7月31日(土)13時30分～15時 「幸せな死・不幸せな死」 (倉石 あつ子)
- ② 8月28日(土)13時30分～15時 「なぜホトケムカエなのか」 (宮本 尚子)
- ③ 9月25日(土)13時30分～15時 「松本平の観音霊場」 (原 明芳)
- ④ 10月 9日(土)13時30分～15時 「満願寺をめぐる“殿様”たち」 (逸見 大悟)

★ギャラリートーク

- ①8月1日(日)10時～ 前半展示分
- ②9月20日(月祝) 10時～ 後半展示分

★現地見学会

8月22日(日) 9時30分～ 満願寺境内 【要申込】

*各イベントとも、詳細は豊科郷土博物館にお問い合わせください。Tel 72-5672